



いま あきののぶ  
今井 明信 議員



一般質問 ズバリ！ ここが聞きたい

## 介護事業者の現状と 今後の運営に対する考えは

村中町長

### 協力体制の強化を図り 地域福祉の推進に向け必要な支援を行う

■質問・今井議員  
本町の高齢世帯・人口ともに減少はしているようですが要介護認定者の認定率は増加しています。一方で介護事業者の運営は厳しい状況にあると伺っています。そこで本町の今後の高齢者・要介護認定者へ向けた政策について、比布町社会福祉協議会を含んだ介護事業者の現状とその対応や今後の運営等について次のとおり質問します。

①現在、社会福祉協議会、あそか苑、民間介護施設が運営をしています。が、経営改善に向けて町内で同種のサービス内容を住み分けることを考えられないか。

②比布町社会福祉協議会の運営内容の改善について考えを伺いたい。

■答弁・村中町長  
介護保険サービスは「利用できる時代」から、「サービスとして」選ばれる時代へと変化しています。このため各事業者間での競争が激しくなり、本町でも一部の事業者においては事業運営が厳しい状況になっていきます。

①現在、本町の事業所においてそのサービス内容を住み分けすることは、事業者を限定することにもなり、新規事業者の参入を妨げ、競争原理が働かないことによるサービスの質の低下や利用者の選

択の幅を狭めることにもなりかねない懸念があることから、現段階では、町として住み分けを行う考えはありません。

②現在、社会福祉協議会に対し、訪問介護事業の赤字額のうち9割を町が補助していますが、ホームヘルパー一人当たりの訪問件数が基準となる件数を大きく下回っている状況にあることから、事務局が中心となり地域のサービス需要の掘り起こしや、他の事業者等との連携を図り積極的な営業活動を実践するなど、訪問件数増に向けて取り組みを強化するよう要望しています。

新たな福祉事業等の導入にも積極的に関わっていただき、地域福祉のコーディネート役を担っていただきたいと思います。今後においては、委託事業の見直しを含め、事業内容等について協議を行い、町民と行政との橋渡し役となつていただければ、協力体制の強化を図り、地域福祉の推進に向け必要な支援を行います。

■今井議員 現在、特に道北の小規模自治体にて経営をされていた介護施設等の閉鎖が増えており、このような状況は増していくと考

えます。町長はこの現状について、また、町内で新規介護事業者の参入をどう考えているのか伺います。

■村中町長 介護の利用状況について、町外で利用されている方もおりますが、町内にも施設がありますので、できるだけ町内で利用していただきたいと考えます。

新規参入については全く拒否することもできません。需要と供給のバランスが適度に保たれる競争と新規参入があることは望ましいことだと考えます。

■今井議員 町から社会福祉協議会への近年の運営費補助額は約2,000万円ですが、令和5年度収支は196万円の赤字です。現在、様々な地域福祉事業を行っています。事業から介護事業を外してはどうかと考えます。その為にもサービス内容の住み分けが必要と考えますが、町としての考えを再度伺います。

■村中町長 町内の住み分けに関しては、民間事業者に対してアドバイスや助言はできても、主導的に事業を縮小したり、事業を拡大させることは行政として難しいと思います。

■今井議員 近隣町でも様々な委託事業等を行っています。今後の社会福祉協議会の運営に対する考えを伺います。

■村中町長 町から介護事業をなくすわけにはいきませんので、どういった方法が最適なのか、これから検討していきたいと考えます。



一般質問 ズバリ！ ここが聞きたい

## 高齢者の運転技術向上講習 実施の考えは

村中町長

### 運転技術の維持などを目的とした講習会の開催は有効と考える

■村中町長 事故防止のための様々な装置が付いた車もありますが、免許を返納してしまえば乗れなくなってしまう。車の安全性が発達していくことと、免許返納については悩んでいるところですが、長く安全に運転してほしい。

■植西議員 「深視力※1」や「高齢者運転者標章の効能」「デイライト運動※2」の必要性についてはどう考えていますか。



ドライブシミュレーター

■植西議員 あの前東京・池袋での事故を起こした当事者は、免許を返すと不便になることから躊躇していたようです。

■村中町長 東京でも車がないと不便を感じるということは、比布町ではなおのことだと思います。公共交通機関に携わる民間の事業者とも協議を深めながら、交通環境を整えていきます。

※1「深視力」  
遠近感や立体感を判断するための能力。大型免許取得・更新時に測定が行われる。普通免許証では測定なし。

※2「デイライト運動」  
日中からライトを付けて走ることで交通事故防止を図ろうとする運動。

■植西議員 「比布町と言えば「いちご」と返ってくるほどイメージ

が強く、多くの方に愛されています。いちご生産農家をどのように支えていこうとお考えですか。

■村中町長 いちご狩りについては、実行委員会などの体制による新たな圃場の管理運営など、課題の解決に向けて関係者とともに検討していきます。また、実証試験栽培を行っている「冬いちご」については、栽培方法確立の目的がたつたことから、今後は生産者の拡大や普及、ブランド力を活かした販売に対する支援などを行います。

■植西議員 6次化の推進についてはどのようにお考えですか。

また、次の世代に引き継ぐためのコスト対策はありますか。

■村中町長 課題は一つではなくたくさんあって、一つひとつ解決しなければ持続はできないと思いますし、今までは違う考え方で続けていかなければいけないと考えます。

「スキーといちごの町」は比布町にとつてなくてはならないものであり、100年以上続くいちごの歴史を大切にしていきたいと思

